研究室紹介

Institution, Members and Works

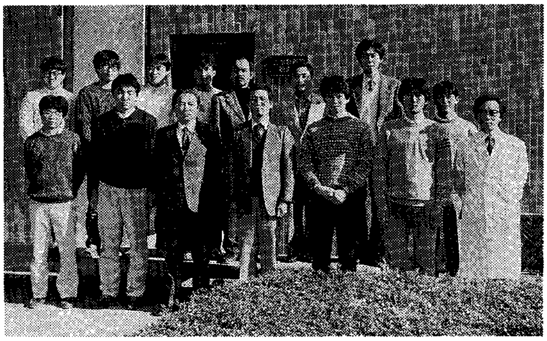
国際会議報告

International Meetings

●研究室紹介

東北大学工学部土木工学科
土木計画学研究室

須田　熈
稲村　肇
湯沢　昭
徳永　幸之



はじめに

東北大学は，帝国大学として明治40年に設置されたが，戦後の学制改革に伴い，現在の土木工学科は昭和26年に創設された．当初，5講座より発足した本学科も現在は11講座となり，その他に自然災害資料センター，津波防災実験所などの付属施設を擁している．昭和63年度の土木工学科の在学生数は，4年生が75人，大学院が前期（修士課程）52人，後期（博士課程）19人となっている．

土木工学科における計画系の研究室は現在，土木計画学研究室と道路工学研究室であるが主に前者の研究室で担当している．土木計画学研究室の発足は，現在の講座担当教授である須田が昭和54年に運輸省より着任してからの歴史であるため，他の大学の計画系の研究室の歴史と比較すると非常に新しい．その後，昭和59年に稲村が運輸省から助教授として，さらに昭和60年には徳永が同じく運輸省から助手として着任しており，現在はフルメンバーの教官4人，技官2人，4年生6人，M1，M2各3人の合計18名からなっている．ただし，稲村は昭和62年8月より64年7月までAIT（タイ国）に出向中である．

研究活動

当研究室の研究課題は，基本的に大きく4つの課題からなっており，それに添って卒論・修論のテーマを決定している．それは，地域計画，都市計画，交通計画，および港湾計画であり，その他にトピック的にテーマを決定している．ちなみに今年度の卒論・修論の課題は以下のとおりである．

卒論　・空港の整備効果分析　・リゾート施設整備効果分析　・地下鉄開業による土地利用の変化　・空港貨物の実態分析　・土木史的プロジェクト評価　・建設マネジメント問題

修論　・地方都市の交通問題　・土木計画における意思決定問題　・地域間産業連関分析

このように研究分野が広範囲に及ぶため，分野ごとに指導担当者を決め，月に1回全体の調整を行いながら研究指導を行っている．

須田は，これら研究の全体指導と特に港湾・空港問題に関しての研究をはじめとし，最近は遷都問題に関しても地域のリーダー的存在である．また学内，学外の学会や各種委員会活動にも活躍しており，非常に多忙な毎日を送っている．

稲村は，運輸省港研時代よりのテーマとして物流問題，産業連関分析，地域経済，数理計画等の研究分野に関しての研究活動，指導を行っている．

湯沢は，主に地域計画と建設マネジメント問題に関しての研究活動を，徳永は，交通計画に関する研究指導を行っている．

他大学，高専との交流としては，土木学会の各種委員会や研究活動を始めとし，現在東北地方の大学，高専の若手研究者と年に数回交通問題に関しての勉強会を実施している．今後はこの勉強会をさらに進め，共同研究が行えるような体制にもっていきたいと考えている．

おわりに

土木計画学に限らず大学において研究活動を行うにあたって重要なことは，発想の転換と問題に対する執着心である．特に計画学に関しては，同じ社会現象でもそれをみる断面を変えることにより，新たな知見を得ることが多く，そのために必要なのはいかに謙虚な目で物をみ，その構造を分析し，いかに組み立て直すかである．そこには種々の分析手法や解析手法の助けが必要となるが，それらはあくまでも手段であって，最終的には計画者の哲学，洞察力が要求されることはいうまでもない．

「いかに原点に戻るか，戻る勇気があるか」これがわれわれ研究室一同のモットーであり，常にこのような考え方に基づいて日々の研究・教育に励んでいる．